

令和5年12月13日

秩父市議会議長 堀 口 義 正 様

文教福祉委員長 清 野 和 彦

文 教 福 祉 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

- 1 期 日 令和5年10月3日（火）～5日（木）
- 2 視察先 岡山県岡山県庁、岡山県笠岡市、愛知県豊川市
- 3 参加者 委員長 清野和彦 副委員長 宮前昌美
委員 内田均 委員 宮川浩司
委員 赤岩秀文

4 視察目的

岡山県岡山県庁 「第74回全国植樹祭岡山2024」

○ 岡山県の概要

岡山県は、中国地方に位置し、県庁所在地は岡山市である。山陽本線、山陽新幹線、中国自動車道、山陽自動車道をはじめとして西日本の交通の大動脈が県を横断している。本州と四国を結ぶ瀬戸大橋も昭和63年に開通した。面積は7114.77km²。人口は令和5年9月現在1,847,016人。

県北部には、三本の一級河川（旭川・高梁川・吉井川）の県内源流となっている中国山地の山岳地帯がそびえ、中央部には吉備高原の高地が連続的に広がり、南部には三大河川によって形成された裾野の広い岡山平野が広がっている。岡山平野にはかつて瀬戸内海に浮かんでいた小さな島が丘陵地として残り、干拓で江戸時代につながった児島半島が県の南端部にある。県南西部には国営笠岡湾干拓事業として1650haと全国有数の規模の大干拓地域が造成されている。

○ 事業の概要

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催により開催する国土緑化運動の中心的行事であり、天皇皇后両陛下の御臨席を賜るとともに、県内外から多くの参加者を迎え、式典行事や記念植樹が行われる。

岡山県では、昭和 42 年の岡山市の金山山頂における第 18 回大会の開催以来 57 年ぶり 2 回目となる第 74 回大会を令和 6 年に岡山市内で開催する。

県では、全国植樹祭の開催を通じて、「豊富な森林資源の循環利用」を進め、森林の持つ公益的機能の確保に努めるとともに、県民一人ひとりの緑化意識のさらなる醸成を図り、豊かな自然を守り育てるための県民運動を拡大する契機とすることで、みどりあふれる郷土を未来の子どもたちへつなぐこと、県の歴史・文化など数多くの魅力を全国に発信することを目指している。



岡山県笠岡市 「笠岡市新病院 基本構想」

○ 市の概要

笠岡市は、岡山県の西南部に位置する。旧福山藩領であり、隣接する広島県福山市と歴史的・文化的に深い結び付きを持つ。現在も福山市のベッドタウンとして福山都市圏を構成している。瀬戸内海に面し、南には広大な笠岡湾干拓地と大小 32 の島々からなる笠岡諸島が広がる。昭和 27 年市制施行。面積は 136.24 km²。人口は令和 5 年 9 月末日現在 44,965 人。

「笠岡」の地名は、吉備氏の一族「笠臣氏」の勢力範囲であったことに由来するとされ、隅田川・今立川などからの土砂が堆積した堆積平野を基盤に、近世以降は福山藩によって干拓・埋め立てが行われ現在の市街が形成された。典型的な瀬戸内海式気候であり、夏の季節風は四国山地に、冬の季節風は中国山地によって遮られるため年間を通じて天候や湿度が安定している。

○ 事業の概要



笠岡市立市民病院は昭和 8 年に町立金浦病院として設立後、昭和 27 年の笠岡町と金浦町の合併により笠岡市が誕生すると同時に、「笠岡市立市民病院」に改称し、昭和 38 年に現在地に移転をした。時代の求めに応じて診療科目等を拡大し、増築とともに病床規模は最大 278 床となったが、地域の医療機関の整備が進むとともに、人口減少や医師数の減少を背景として、患者数が減少し、令和 3 年度からは 99 床となった。

既存棟は建築から50年以上、増築した建物も30年以上が経過し、耐震化ができておらず、施設及び整備の老朽化が著しく、現状のまま病院を維持することは困難であり、公立病院としての役割を果たしながら、時代にあった病院となる必要があることから、平成30年度の市民意識調査、市立病院の建替え問題を考える100人市民会議の実施、令和2～3年度の『笠岡市新病院基本構想有識者会議』を経て、令和4年に『笠岡市新病院基本構想』を策定。令和5年7月には構想に基づき、新病院の担うべき役割や機能等について、考え方や方向性を具体化した計画を策定した。

愛知県豊川市 「がん検診受診率向上」

○ 市の概要

豊川市は、愛知県南東部の三河地方に位置する。東三河地域においては豊橋市に次ぐ人口であり、中京圏および豊橋都市圏に属している。面積は161.14 km²。人口は令和5年9月末日現在186,364人。

豊川稲荷の門前町から発展し、市名の豊川の由来は律令制の宝飯郡豊川郷である。東名高速道路や国道1号、国道23号、国道151号、国道362号などが通り、東三河の道路交通の要衝となっている。市の東部には豊川、西部には音羽川、中心部には佐奈川などが流れ、市南西部にある三河湾に注ぎ、市の北部は主に山地となっている。市では中心市街地の区域を、公共機関や商業施設などが所在する「諏訪地区」、豊川稲荷の門前町として発展した「豊川地区」、両地区をつなぐ「中央通地区」の3地区とし、「中心市街地商業等活性化基本計画」を策定して中心市街地の開発促進に取り組んでいる。

○ 事業の概要

豊川市では、がん検診の個別の受診案内が未実施であったこと、対象全員への周知が不十分であったこと、がん検診の啓発を広報やホームページ等で行うが受診率向上に結びつかなかったことなどを受け、豊川信用金庫、アフラック生命保険会社、東京海上日動火災保険株式会社、第一生命保険会社とともに、がん検診率向上プロジェクトとして、がん検診の受診勧奨、がん検診の知識普及をはじめとするがん対策に取り



組んでいる。また、勤め先などでがん検診等を受ける機会のない市民に対して、ワンコインがん検診を実施しているほか、40健診における胃がんリスク層別化検査としてのピロリ菌検査、市民の健康意識の向上による市全体の生活習慣病予防、重症化予防、健康寿命の延伸に向けた健幸マイレージ事業、健幸企業チャレンジなどに取り組んでいる。

【 笠岡市新病院基本構想と基本計画 清野和彦 】

これからの秩父地域の医療提供体制を考える上で、現在の市立病院をどのようにしていくのが大きなテーマになっている中で、この度の文教福祉委員会の行政視察において、笠岡市の新病院基本構想と基本計画について学ぶことができたことはとても有意義であった。

笠岡市立市民病院の新病院基本構想・基本計画について、大きく二つの学びがあった。

一つ目は、構想策定に至るまでの手順についてである。昭和8年に町立金浦病院として設立されたのち、昭和27年の笠岡町、金浦町の合併による新笠岡市の誕生から「笠岡市立市民病院」として運営されてきた市民病院は、時代の求めに応じて病床規模や診療科目等を増やしてきたが、人口の減少や医師数の減少を背景として、患者数が減少し、病床数も削減された。南海トラフ巨大地震への備えの必要性や、施設、設備の著しい老朽化などを受け、今後の市民病院のあり方を検討するために、平成30年度に市民意識調査、市民病院の建替え問題を考える100人市民会議、令和2～3年度に『笠岡市新病院基本構想有識者会議』を実施し、その経過を踏まえ、4年7月に基本構想、5年7月に基本計画が策定された。公立病院の建替えに向けて住民参画の上で進める手順として大変参考になった。

二つ目は、病院建替えの前提として、徹底的な経営改善がなされたことである。病院の建替えにより、一時的に患者は増えたとしても、持続可能な運営のためには、経営体質の改善が重要である。病院建替えについての議論は、経営改善に向けた改革の実施と両輪でなされる必要があると再認識した。

【 行政視察の学びを活かす 宮前昌美 】

4年ぶりとなる行政視察の初参加を終えて、視察先担当部局の皆さま、並びに議会事務局担当者に心から感謝申し上げます。各地で詳細かつ膨大な資料のご用意をいただいた。

1. 岡山県庁（2024年・第74回全国植樹祭開催）

事業予算に関して、過去には10億円を超えた事例もあったようだが、国からの補助がなく、全てを自治体の予算で行わなければならないため、岡山県では4億円で収まるよう身の丈に合った開催規模を徹底している印象を受けた。また招待者も県内外各900人程度、記念品を県内27市町村のコンペで行うなど、思いもつかなかった工夫が見られた。

2. 岡山県笠岡市（市立新病院基本構想）

平成28年度3億3800万円の赤字から、たった5年で1億7500万円の黒字へ。令和4年度には3億7860万円の黒字へと、まるでドラマのような話だった。病院長を公募で決め、「公営企業法（全部適用）」により権限を与えて、「基本構想」「基本計画」を市職員が作成するなど、想像をはるかに超えた熱意あふれる話。4年後の新病院完成が楽しみだと感じた。

3. 愛知県豊川市（がん検診受診率向上）

官民連携による受診率向上の取組み、ワンコイン（500円）検診、集団がん検診を年齢により無償化するなど、いくつもの壁にぶつかりながら、職員が一丸となって乗り越えてきた様子が伺えた。地道な周知徹底、幼い頃からの普及活動に加えて、職員の負担軽減にも配慮され、受診率は秩父市の5倍。秩父市でもできることはたくさんあるように思えた。

【 文教福祉委員会行政視察を終えて 内田 均 】

1日目は、岡山県にて第74回全国植樹祭について視察した。植樹祭の開催に向けて、植樹に使用する苗木を、地域の小学生が大事に育て、森林・環境への理解と参加を呼びかけるほか、ポスター原画を募集し優秀作品を表彰、高校生がカウントダウンボードをデザインするなど市民に広く意識づけを実施している。市民参加型の植樹祭としているのを強く感じる。

2日目は、岡山県笠岡市にて、新病院建設基本計画を視察、笠岡市は人口44,965人で瀬戸内海に面し、離島も存在している地域である。現在の市立病院は、昭和38年9月建設、昭和56年に増築278床となる。令和3年に人口減少や医師数の減少で99床まで減少したが、莫大な経常赤字が続く中、コロナ患者を他地域からも積極的に取り入れ、補助金等で令和3年、4年で経常利益もV字回復させていった。秩父市の環境によく似ているが、苦境の時こそ未来は開けると実感した。市職員・医療スタッフの奮起を期待したい。

3日目は、愛知県豊川市に移動し、がん検診受診率向上について視察した。豊川市では、医療機関でのワンコインがん検診を取り入れ、検診を受けやすくしている。また、集団検診は、無料で受けられ、受診年齢条件や各年はあるが、受診率向上に寄与していると考えられる。これからは、若年層の検診率向上のため、「とよかわ健幸マイレージ」の企業チャレンジなど、働き盛りの市民を対象とした取り組みが重要としていた。

行政視察は初めてだったが、有意義であり大変参考になった。今後の議会活動に生かして行きたい。

【 文教福祉委員会行政視察報告 宮川 浩 司 】

文教福祉委員会では、来年度の全国植樹祭の会場となる岡山県岡山県庁、新病院建設を進める岡山県笠岡市、並びに「がん検診」受診率向上を目指す施策を行っている愛知県豊川市での行政視察を行った。

岡山県庁では、現在行っている植樹祭に向けての機運醸成の取組やスケジュール、事業予算などのご説明を頂いた。県および県内市町村を含めた広報活動などのお話を伺うと、改めて全国植樹祭というイベントの大きさが理解出来た。国からの補助がほとんど無い中で様々な施策を企画運営していく姿勢に、県の矜持を見た思いである。

笠岡市では、新病院に至るまでの経緯を詳しく伺う事が出来た。費用対効果の観点から大規模改修や耐震補強ではなく、新設を選択した事やその決断に至るまでの検討、また、新病院基本構想や基本計画など、資料も惜しみなく御提供頂き、秩父市立病院の今後の在り方に大いに参考になると考える。特筆すべきは、新病院建設に関わる方々の熱意である。全員が同じ方向を目指して奮闘される姿勢には感銘を受けた。

豊川市の「がん検診」受診率向上の各施策では、ゆるキャラや「ワンコインがん検診」など、耳目を集めるためのユニークな工夫が見られた。一方で、予算措置や減免対象者の取扱などといった、ワンコインの施策を行ううえでの実施上の試行錯誤の経過を詳しくご説明頂けたことで、秩父市において今後同様の施策を検討するにあたり、貴重な経験則を共有することができた。

【 笠岡市の決意が見える新病院構想 赤岩秀文 】

笠岡市民病院は老朽化した市民病院の今後を検討するにあたって、病院機能、配管老朽化の不具合等を勘案し、施設の維持管理費の観点から対処療法的な補修修繕を頻繁に行うよりも、新たに建設を進める方が費用対効果が大きくなるとの考え方から、新病院建設に向け構想を策定したものである。

まず新病院構想を策定する前に笠岡市が進めたことは、病院の経営状況の改善である。かつての笠岡市民病院は、秩父市立病院と同様に市からの補助金を投入しても大幅な赤字となる病院であったが、新たな病院事業管理者を迎え経営改善に取り組んだ。特質すべきはこの病院事業管理者を公募により選任したことにある。とかく公立病院では内部からの昇格による管理者の選任が一般的であるが、笠岡市では管理者の公募を行うことにより隣の医療法人理事長が管理者として選任されている。私は常々考えているが、民間の事業においては経営に対して事業は黒字化していかなければ施設は廃業となってしまうため、経営改善に必死に取り組む知恵を持ち合わせており、管理者の民間からの登用は理にかなっている。また、民間登用を指示した、笠岡市長の決断は大いに評価されるべきと考えている。いずれにしても現在の笠岡市民病院は、病床稼働率の適正化、医事業務委託の見直しによる適正人員化、また有能な医療職員の確保などに成功し、市からの補助金はあるものの、病院経営は黒字となっている。本来であれば新病院構想について書くべきであるが、担当職員の熱量に感銘を受け、以上の報告となった。当然、新病院構想も熱量のある素晴らしいものとなっている。